

大和合金

鍛造用加熱炉を増設

鉄合金・大型母材に対応

特殊銅合金メーカーの大和合金（本社＝東京都板橋区、萩野茂雄社長）はこのほど、鍛造用の加熱炉を1基増設した。従来使用していたものより、高温での処理が可能になり、特殊な鉄合金などにも対応できる。鍛造用のエアハンマーと加熱炉

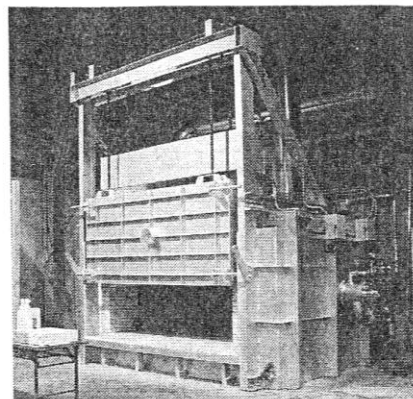
がそれぞれ4基体制となり、生産効率も向上する。グループの鍛造メーカー、三芳合金工業（埼玉県入間郡三芳町）に昨年12月導入した加熱炉は、従来設備より100度高い1100度まで温度を上げられる。投資額は約200

0万円。熱処理炉向けの部材などで需要がある鉄合金にも対応する。また、熱交換器用の大型母材なども処理できるため、これまで外注していたものの一部内製化にもつながる。2009年に2トタ

イブの大型エアハンマーを増設し、鍛造設備を強化した。しかしリマン・ショック後の需要急減を受け、前処理に必要な加熱炉は増設を見送ってきた。足元は需要が落ち込む前の08年の8・9割水準まで稼働率が回復しており、増設を決めた。同社は銅にクロムや

アルミ、ニッケルなどを添加した特殊銅合金の製造加工が専門。鍛造、押出など一貫して行うことで短納期を可能にしている。取り扱う合金は100種類を

超え、自動車や航空機、船舶の軸受部品などに



増設した加熱炉

幅広く使用されている。

特に航空機や環境関連での需要開拓に力を入れてお

り、海外向けでも実績を積む。先月には中国の航空機整備会社に軸受け部材を納入。欧米の航空機部品メーカーへのサンプル出荷なども精力的に行っている。